

2020年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

株式会社RVH

2019年11月14日



1.	2020年3月期 第2四半期連結業績ハイライト	P.2
2.	2020年3月期 第2四半期セグメント別実績	P.9
	レディスサービス事業：2020年3月期 2Q実績	P.11
	ブランド別出退店実績	P.12
	美容脱毛部門	P.13
	エステティック部門	P.17
	アパレル部門	P.19
	その他事業：2020年3月期 2Q実績	P.21
3.	2020年3月期 通期連結業績予想	P.22

1. 2020年3月期 第2四半期 連結業績ハイライト

物販好調、広告宣伝投資の効率化等により大幅増益 通期連結業績予想は下期の動向等を踏まえ精査中

(単位：百万円)

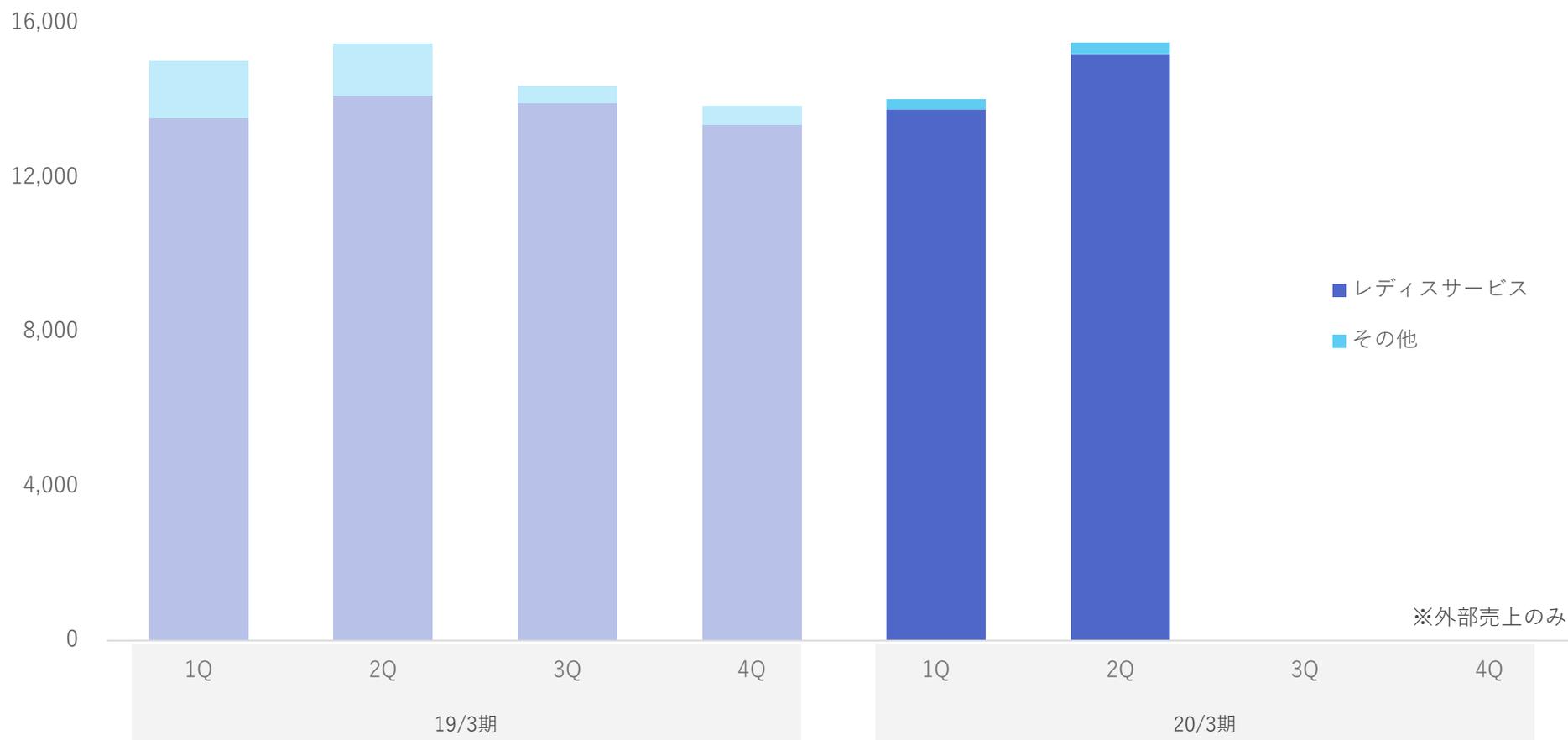
科目／期別	2019/3期 2Q実績	2020/3期 2Q実績	増減	主な増減要因
売上高	30,487	29,544	△942	前期連結子会社（広告代理店部門）売却による減少
E B I T D A	672	2,769	2,096	営業利益+のれん償却費962百万円 + 減価償却費625百万円
営業利益	△865	1,180	2,046	美容脱毛部門の広告効率化により増益
経常利益	△816	1,262	2,079	
法人税等合計	327	835	507	法人税等調整額817百万円 ※以下参照
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△1,606	△1,054	552	子会社株式譲渡代金の貸倒引当金繰入額 735百万円(追加) 子会社のれん減損損失計上 356百万円

※法人税等調整額について

法人税等調整額の計上は、主に、ミュゼ社における旧会社からの事業譲受により生じた税務上ののれんにつき、税務上の損金算入額に応じて、対応する繰延税金資産を取り崩している影響によるものです。なお、当該税務上ののれんは発生から5年間の定額法により償却しており、償却が終了することにより、当該繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額の計上も終了します。

レディスサービス事業は前年同期比増収 前期の子会社株式譲渡によりその他事業減収

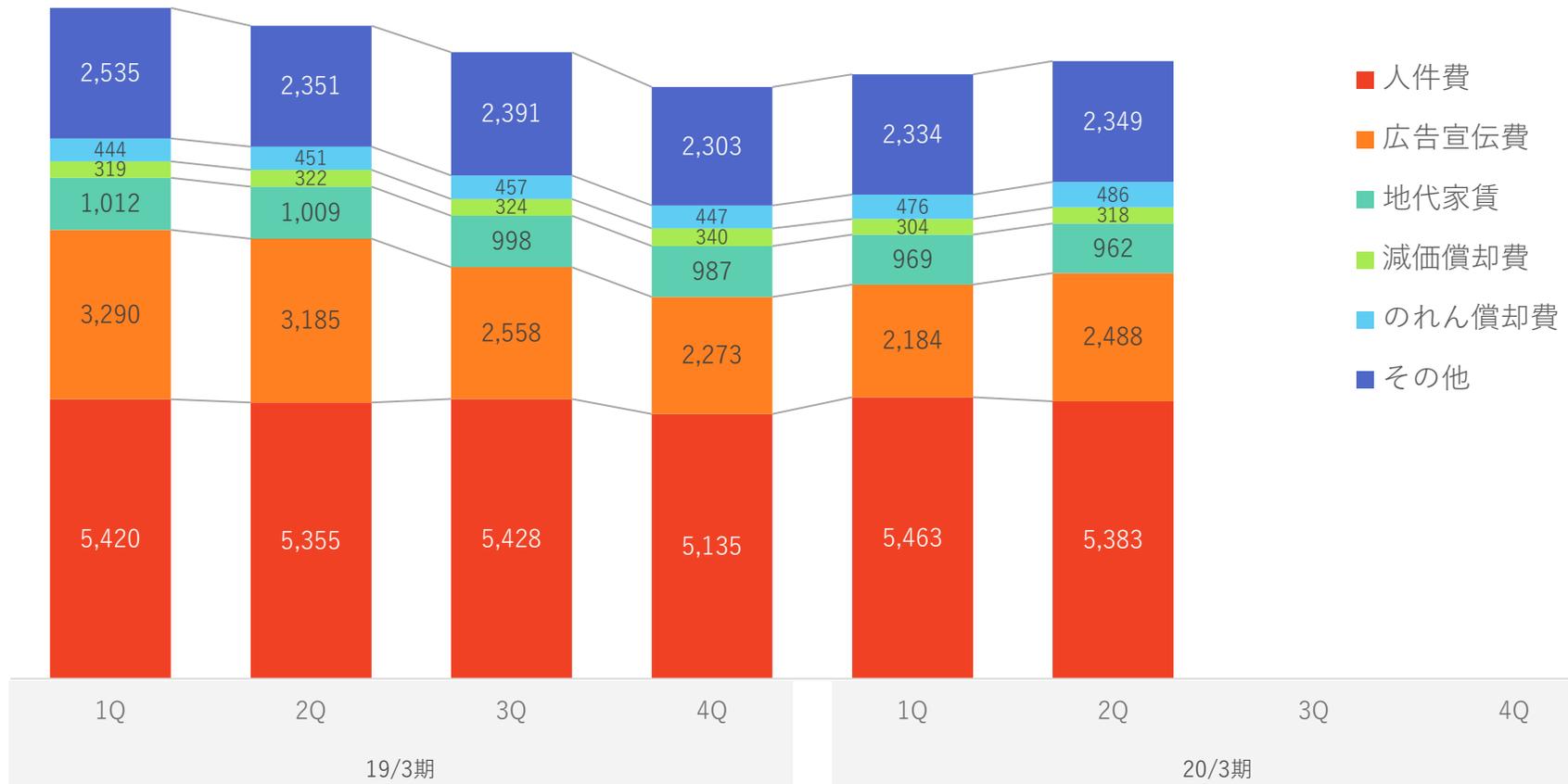
(単位：百万円)



主要販売費及び一般管理費の推移

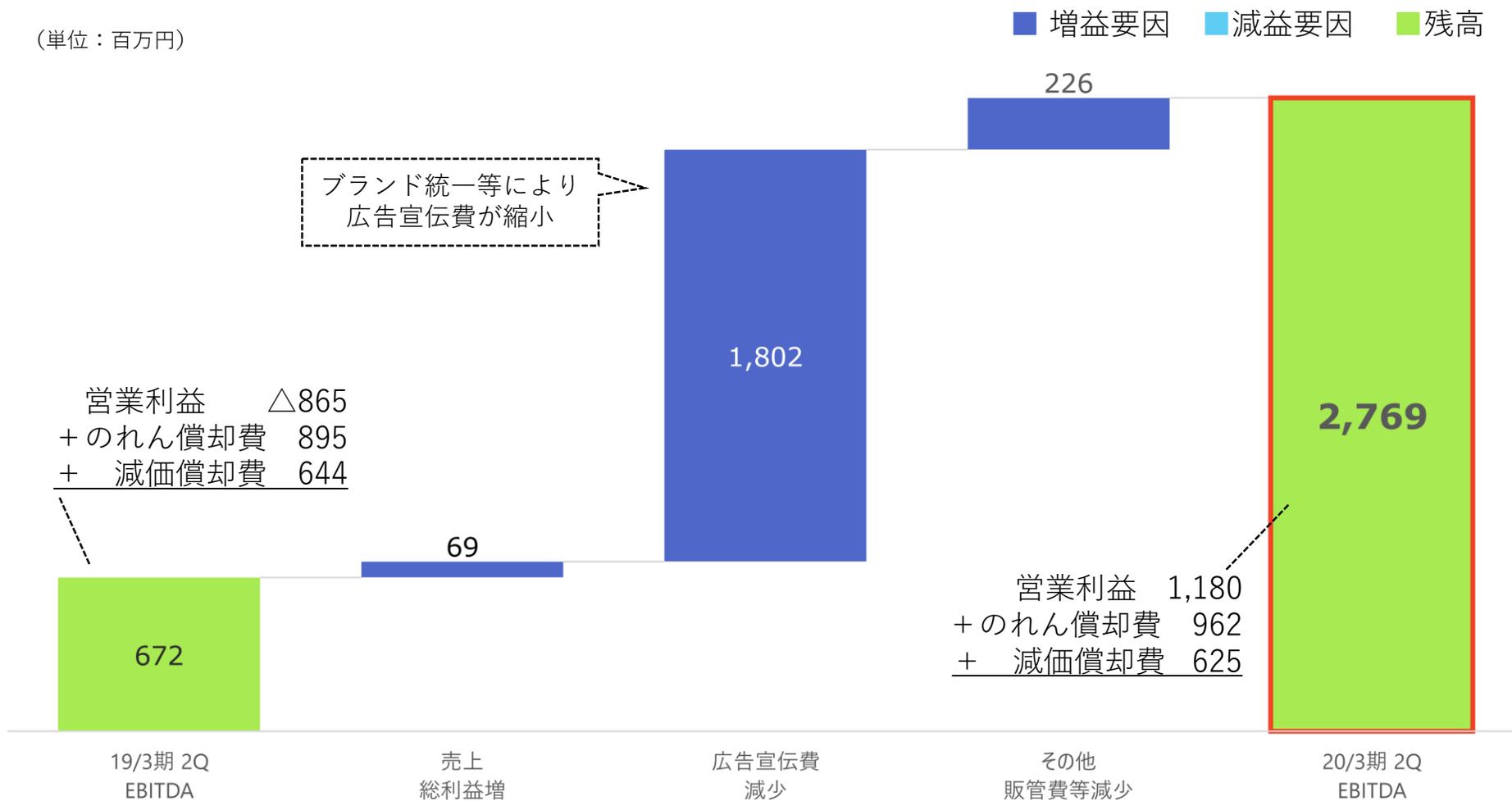
レディスサービス事業の広告宣伝費大幅削減により
販売費及び一般管理費は前年同期比92.2%で推移

(単位：百万円)



美容脱毛ブランド統一により広告宣伝費が縮小し大幅増益

(単位：百万円)



物品売上の増加により売掛金、商品等が増加

(単位：百万円)

	2019/3期 期末	2020/3期 2Q	増減	主な増減要因
流動資産	28,234	27,136	△1,097	
現金及び預金	1,975	1,441	△533	商品仕入の増加、自社ローン取扱の増加
受取手形及び売掛金	11,934	14,364	2,429	物品売上増に伴う増加
商品及び製品	2,814	3,480	666	物品売上増に伴う在庫増加
未収入金	9,188	7,141	△2,046	長期貸付金への振替
固定資産	50,276	51,042	765	
流動負債	53,808	54,330	522	
未払金	2,672	2,940	268	広告出稿増加に伴う仕入債務の増加
前受金	44,283	44,442	159	美容サービス契約獲得の増加
固定負債	16,007	16,171	164	
純資産	8,695	7,676	△1,019	親会社株主に帰属する当期純損失の計上
総資産	78,511	78,178	△332	

連結キャッシュフローの推移

(単位：百万円)

	19/3期 2 Q	20/3期 2 Q
営業キャッシュフロー	△2,867	100
税金等調整前四半期純利益	△1,278	△218
減価償却費	644	625
のれん償却費	895	962
売上債権の増減 (△は増加)	△3,685	△2,425
前受金の増減	2,934	159
事業譲受対価見直しに伴う債権債務の増減 (△は増加)	△1,795	△1,184
投資キャッシュフロー	95	△511
固定資産の取得による支出	△665	△825
財務キャッシュフロー	7	△142
現金及び現金同等物の増減額	△2,764	△553
現金及び現金同等物の期首残高	4,380	1,659
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,616	1,126

2. 2020年3月期 第2四半期 セグメント別実績

セグメント別損益の状況

レディスサービス事業 物販好調により**増収増益**で推移
 その他事業 前期の子会社株式売却等により**減収減益**

(単位：百万円)

科目／期別	2019/3期 2Q実績	2020/3期 2Q実績	対前年同期 増減	対比 (%)
売上高	30,487	29,544	△942	96.9
レディスサービス事業	27,669	28,986	1,317	104.7
その他事業	4,594	1,892	△2,701	41.1
(連結調整等)	△1,776	△1,334	441	—
EBITDA	672	2,769	2,096	411.5
レディスサービス事業	579	2,808	2,229	484.7
その他事業	47	△54	△101	—
(連結調整等)	45	14	△30	—
セグメント損益	△865	1,180	2,046	—

レディスサービス事業：2020年3月期 2Q実績

株式会社 RVH



◆売上高 前年同期比 104.7%

部門別前年同期比：

美容脱毛部門 108.4%

・物販伸長（↑）、マキア出店強化（↑）、ブランド統合により一部店舗減（↓）

エステティック部門 91.0%

・店舗数減（↓）

アパレル部門 97.4%

・EC取扱店舗拡大（↑）、取引先量販店の閉店等による店舗減（↓）

◆セグメントEBITDA 前年同期比 484.7%

広告宣伝費削減、店舗統廃合による生産性確保等により前年同期比大幅増益

レディスサービス事業：ブランド別出退店実績

ミュゼプラチナム、たかの友梨は一部店舗の統廃合を実施
マキアは積極的な出店強化により増加

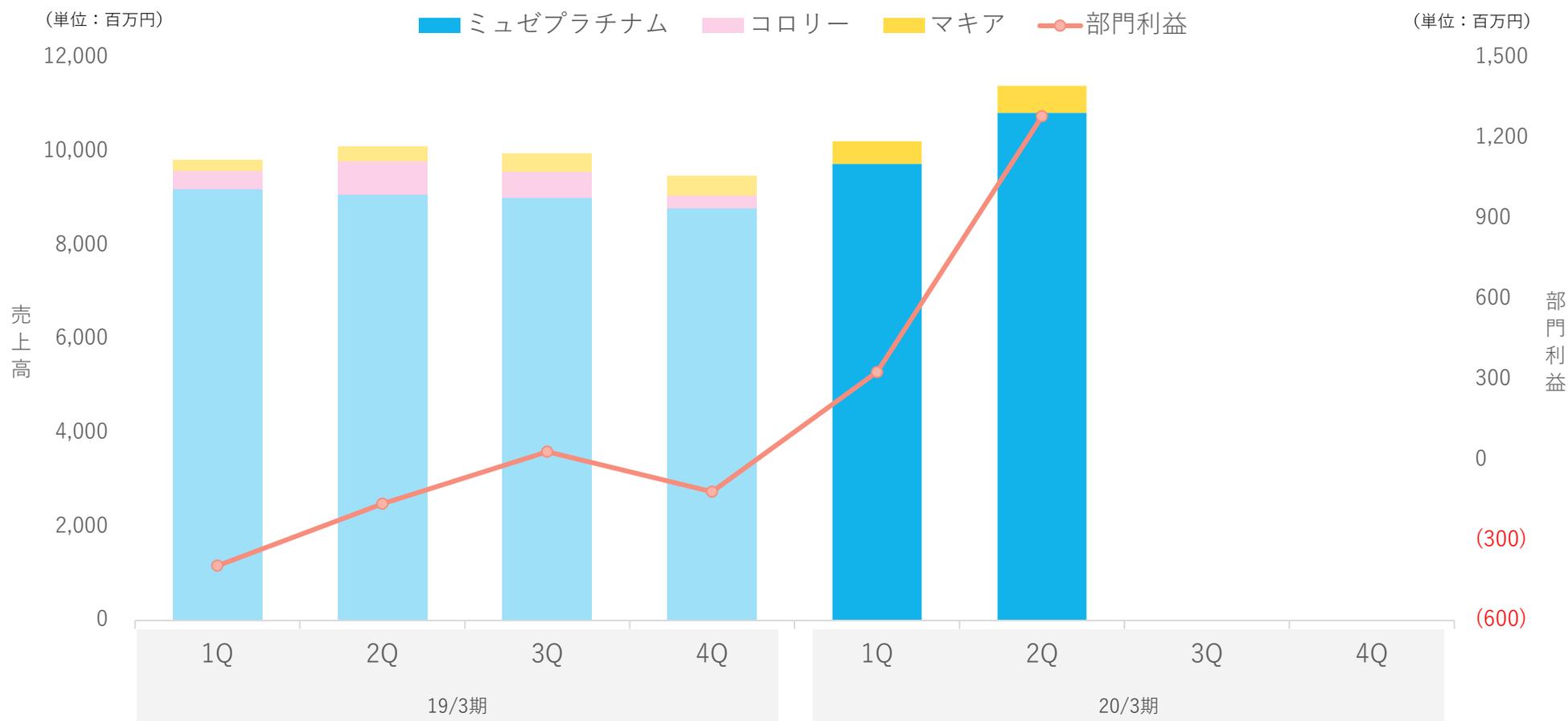
(単位：店舗数)

ブランド	20/3期 1Q	20/3期 2Q	出店	退店	増減
 美容脱毛サロン ミュゼプラチナム(※1)	198	192	2	8	△6
 エステティックサロン たかの友梨ビューティクリニック	81	79	0	2	△2
 アイラッシュサロン マキア	111	118	9	2	7
 レディスフォーマルウェア ラブリークィーン(※2)	443	439	1	5	△4
合計	833	828	12	17	△5

(※1) ミュゼプラチナムの店舗数は、旧コロリーの転換分を含んでおります。

(※2) GMS等ブランド取扱店舗を表示しております。(ただし、催事場・販売員非設置店舗・雑貨のみ取扱等の特殊店舗は除く)

ミュージゼ物販伸長、マキア出店増により **売上高 前年同期比108.4%**
 美容脱毛ブランド統一による広告効率化等により **部門利益 大幅改善**



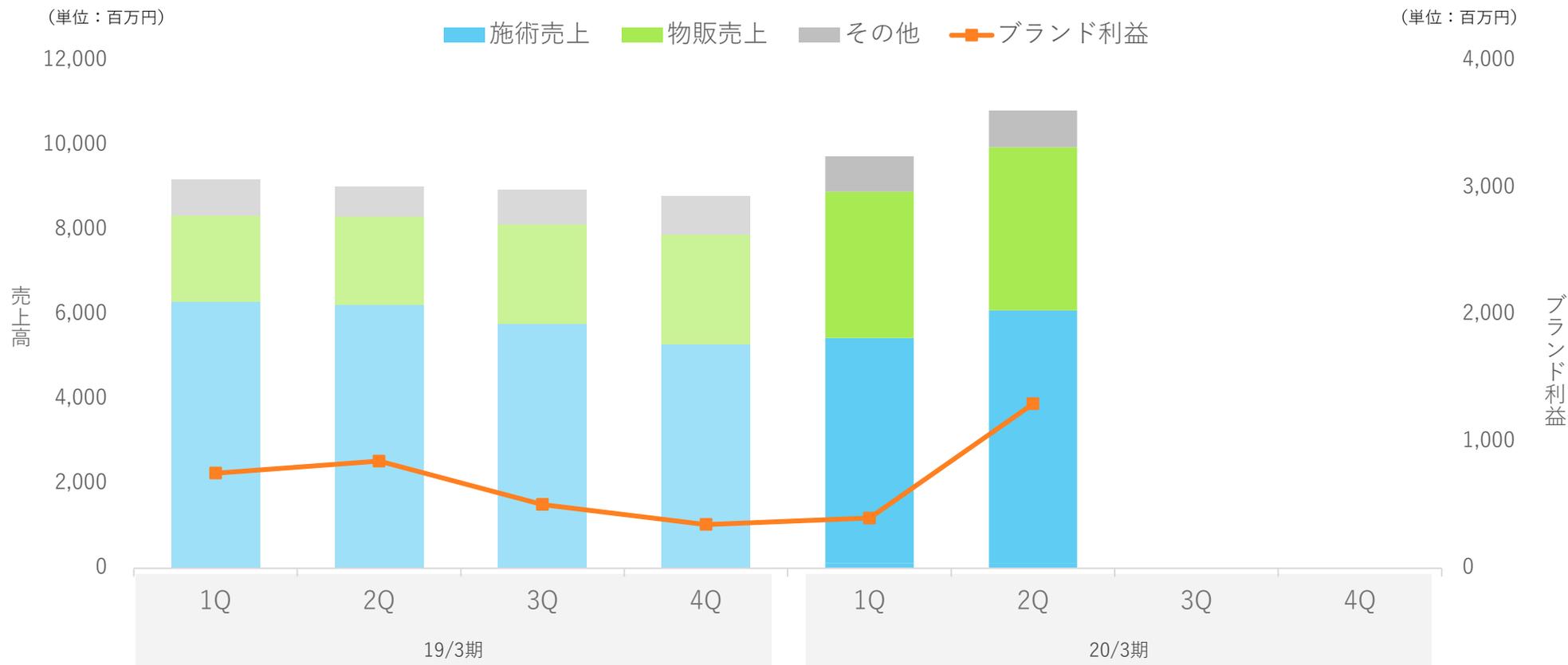
レディスサービス事業：美容脱毛部門 ミュゼプラチナム

◆売上高の内訳及び推移

売上高 前年同期比112.5%

施術売上が前年同期比で減少も、引き続き物販が大幅伸長

ブランド利益は前年同期比106.1%と**増収増益で推移**



レディスサービス事業：美容脱毛部門 ミュゼプラチナム

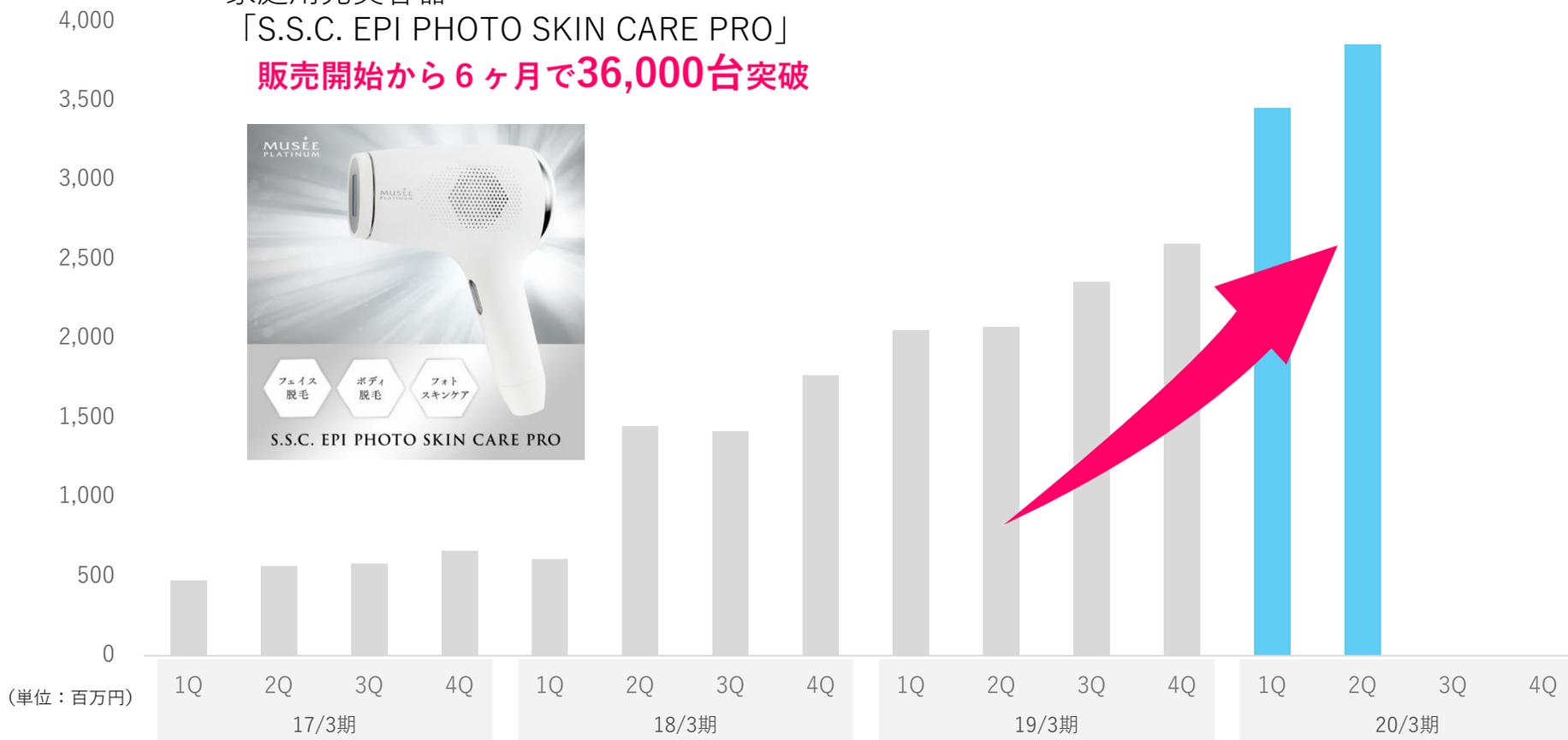
◆物販売上推移

4月より販売開始した家庭用光美容器が好調、**前年同期比177.1%**で推移

家庭用光美容器

「S.S.C. EPI PHOTO SKIN CARE PRO」

販売開始から6ヶ月で36,000台突破



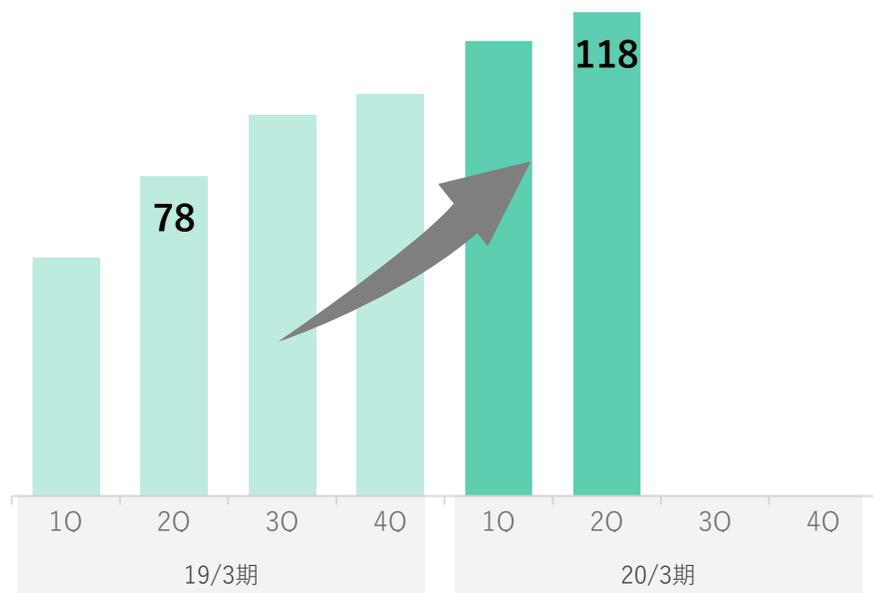
レディスサービス事業：美容脱毛部門 マキア

◆売上高及びブランド利益の推移

売上高は出店強化により前期に引き続き伸長 **前年同期比191.1%**
ブランド利益は前年同期比、前四半期比ともに**大幅改善**

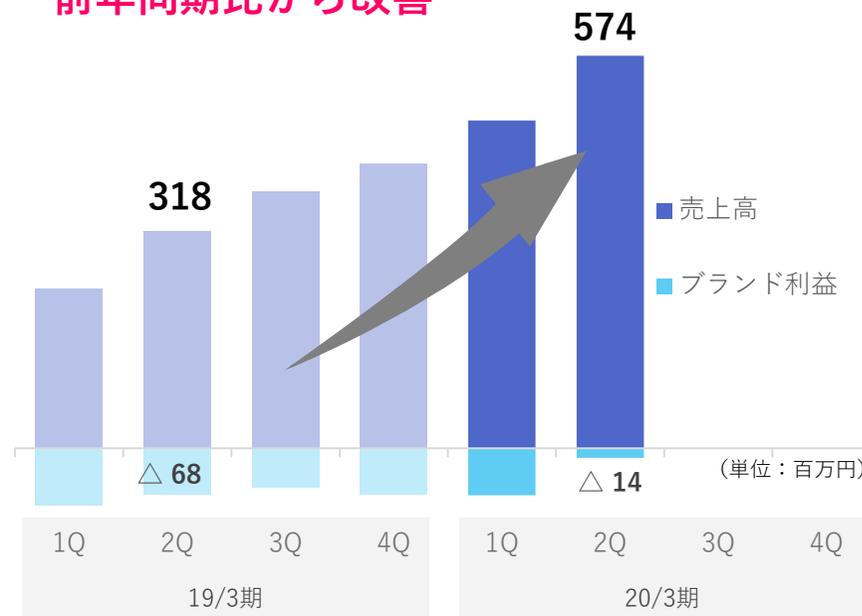
店舗数の推移

前年同期比
40店舗 拡大



売上高及びブランド利益の推移

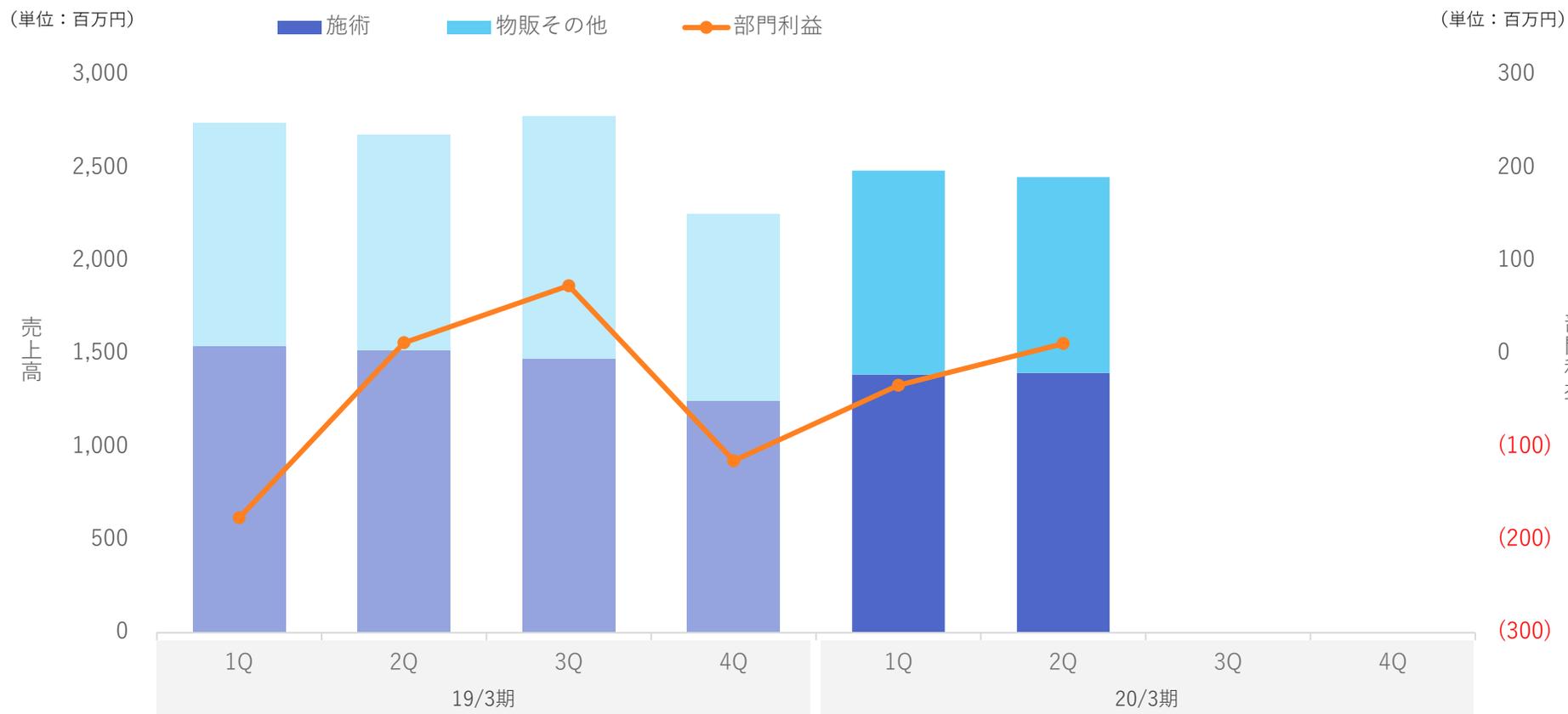
ブランド利益、
ブランド利益率ともに
前年同期比から改善



◆売上高の内訳及び推移

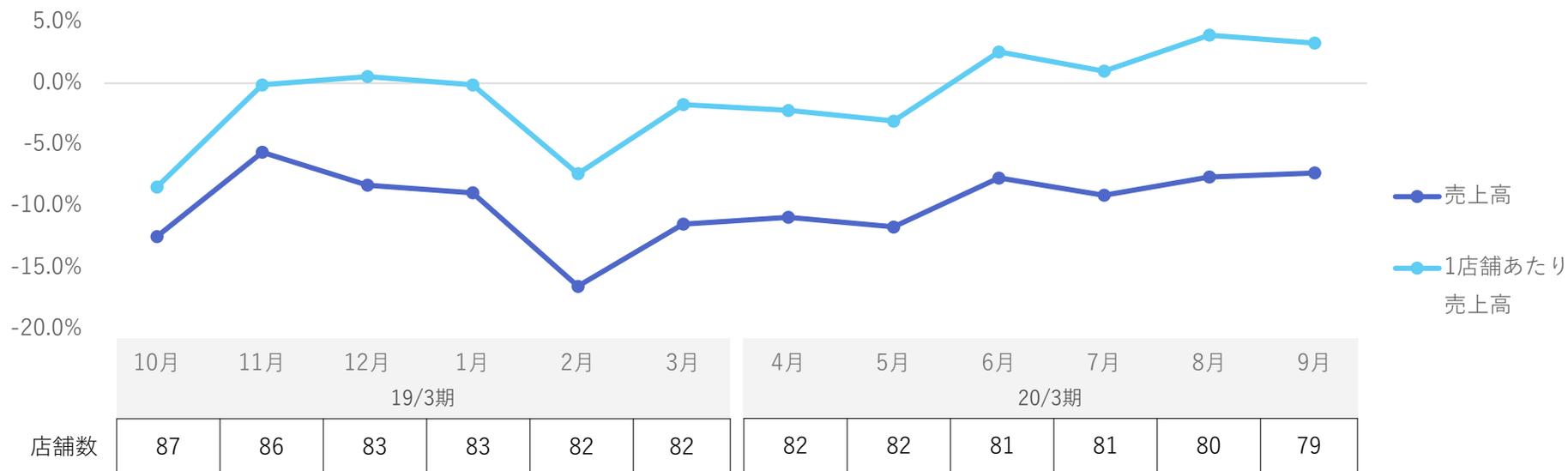
売上高は店舗統廃合により前年同期比91.0%で推移

一方、コスト削減施策により **部門利益は前年同期比及び前四半期比で改善**



店舗統廃合等により減収も、1店舗あたりの生産性は向上傾向で推移

売上高・1店舗あたり売上高 前年同期比増減率



新商品／新コース

エステファクト 3Dパーフェクタージェル

- リンゴ
- サボリアプラ
- アルベンローゼ
- アルガンオイル
- 緑豆

NEW ブドウ
豊富なポリフェノールを含有し高いUV耐性や優れた美肌効果が。

NEW コンプリー
肌のコンディションを高める働きがあり健康的な肌へ導きます。

うるおい ハリ ツヤ

角質層イメージ

蜘蛛の巣ネットアップフェイシャル

ふたつのコスメの Wパワー

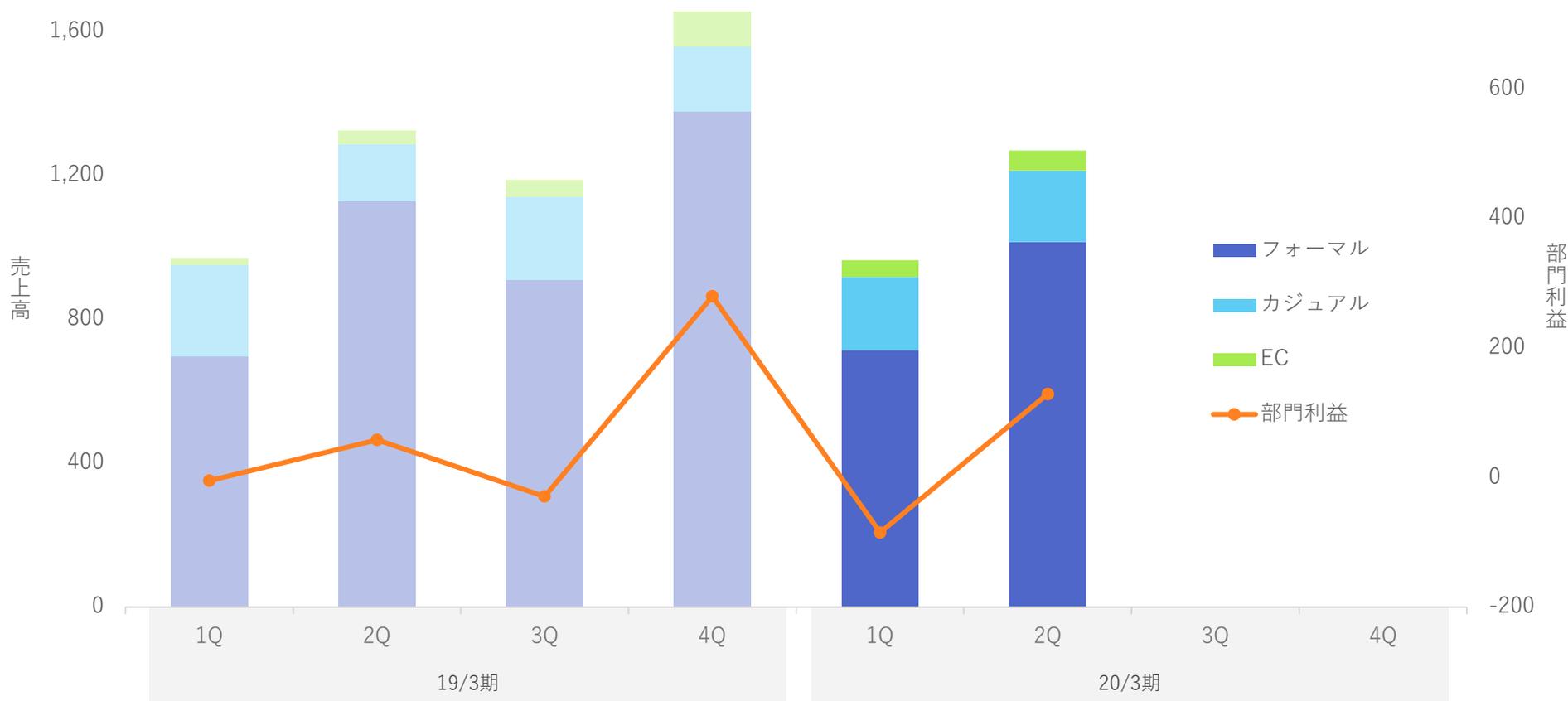
- 蜘蛛の糸のタンパク質線維^{※6} 配合クリーム
- サケの白子のDNA抽出成分^{※5} 配合美容液

レディスサービス事業：アパレル部門 ラブリークィーン

◆売上高及び部門利益の推移

売上高はEC取扱店舗拡大の一方、実店舗減少等により前年同期比97.4%
前期同様 下期偏重推移を見込む

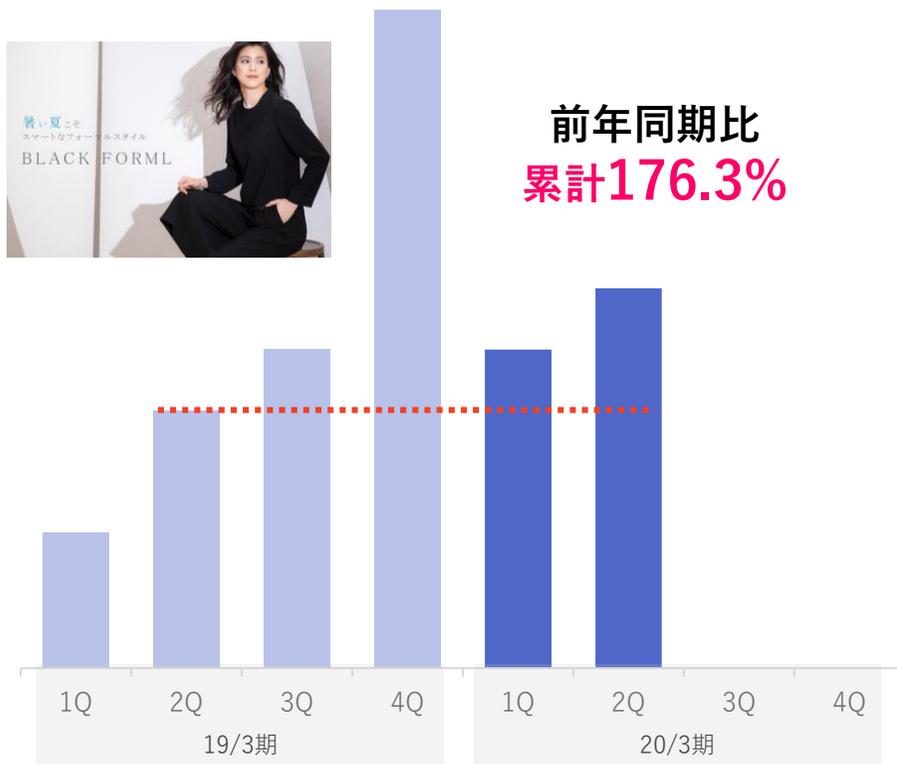
(単位：百万円)



レディスサービス事業：アパレル部門 ラブリークィーン

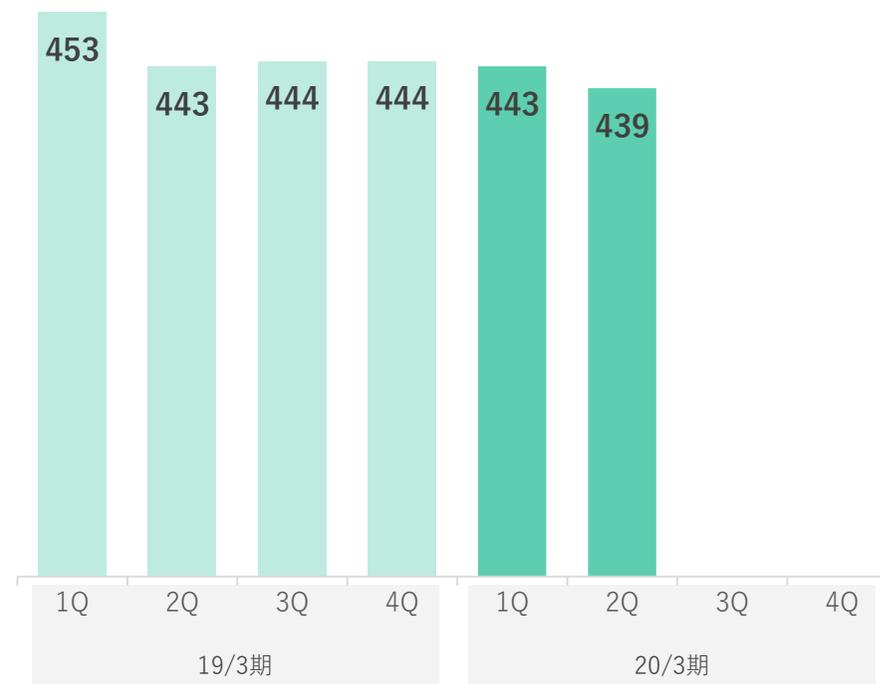
トピックス

EC事業の売上高は前年同期比増収



店舗数の推移

取扱先量販店の閉店等により前年同期比減

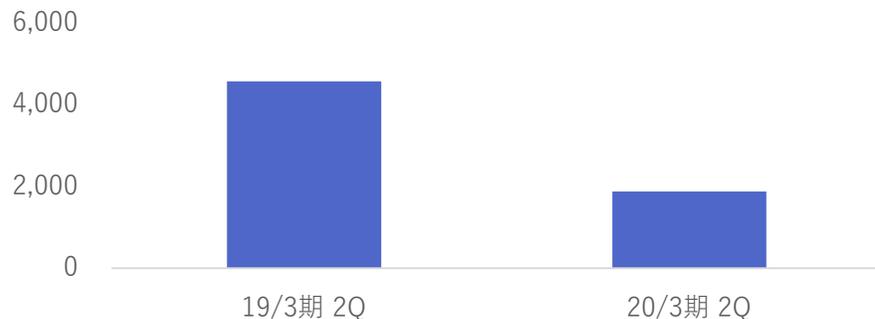


(※) GMS等ブランド取扱店舗を表示
ただし、催事場・販売員非設置・雑貨のみ取扱等の
特殊店舗は除く

その他事業：2020年3月期 2Q実績

(単位：百万円)

売上高



(単位：百万円)

EBITDA



当期より、メディア・コンサルティング事業とシステム開発事業を統合し「その他事業」として区分

◆トピックス

- ・グループ内WEB広告サービス、システム開発、人材派遣等を実施
- ・前期3Qに一部子会社の全株式を譲渡
- ・システム開発は前期と比較して下期偏重傾向が強まる見込み
→売上高 前年同期比41.2%、EBITDA△54百万円で推移

物販好調推移、広告宣伝投資の効率化等により
2Q時点で営業利益128.2%、経常利益105.1%で推移

通期連結業績予想は下期の動向等を踏まえ精査中

(単位：百万円)

科目／期別	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2020/3期 2Q実績	29,544	1,180	1,262	△1,054
2020/3期 通期連結業績予想	57,500	920	1,200	123
進捗率	51.3%	128.2%	105.1%	—

本資料は、当社及び当社グループの企業説明に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。

